

# よく泣き嘆くボウリング女子たち 千曲市舞台のアニメ「Turkey！」



エンディングテーマ曲「もしも」（歌：太陽と踊れ月夜に唄え）が流れる映像の最終シーン

# 「姨捨の月を見に行こう」 熊木杏里さんのモチーフエピソード

## 曲を披露する前に、熊木さんから届いた文章

この歌を作るにあたり、年始に長野へ帰省した際、父に車で姨捨に連れて行ってもらう約束をしていました。

その日、子育てのことなどで、親子喧嘩をしてしまって、どうしようかなと思っていたのですが夜になり、連れて行ってくれると言うので、二人で行きました。「慰めかねつ」と知りながらも、澄んだ月には浄化作用があるのだと思いました。各々に月を見上げながら、会話をしても無事、仲直りする事ができました！

人それぞれ、気持ちを抱えて、姨捨山の月を見上げる時、同じだけの物語がきっと、そこにある。

もし仲直りをしたい方がいたら、行ってみて欲しいですね！なんて。

## さらしな姨捨はエンタメと好相性？

私は子どものころはボウリング人気がすごく、中山律子さんにあこがれた世代。第1話で現代から戦国時代にワープしたのに驚き、全12話ほぼリアルタイムで見ました。2話以降では戸倉家という領主の5姉妹が登場、計10人が絡み合いながらそれぞれの複雑な生き立ちと悩みが浮き彫りになり、後世の歴史では惨殺されてしまっている5姉妹を救おうと得意のボウリングで対抗します。目頭を押さえてしまうシーンや感銘を受けるセリフ（「一生、空氣だと思つてた。空氣だつて動けば風になる。風になれ、私」など）もちりばめられています。最終12話はまさに嘆きと癒し、再生の物語です。歴史では惨殺者の坂城氏という戦国武将とボウリングで対決、窮屈の女子たちはボウリングに2年後、制作元が知らなかつたとは考えられません。アニメでは実際の名前は出てきませんが、お菓子処の名月堂や月の都構成遺産の武水別神社、さらしなの里歴史資料館など、さらしな姨捨にまつわるスポットがいくつも登場することから、意識していたのは間違います。ボウリングの知恵で難題を乗り越えたのは、老人の知恵で国を救つた姨捨伝説の筋書きをほうふとさせます。

毎話、エンディングに流れるテーマ曲の映像では最後に姨捨の棚田で月を見上げるシーンが放送されました（左の写真）。これは明らかに日本遺産に認定された千曲市の「月の都」のイメージを踏まえたものです。実際は月の都という言葉は出てきません。アニメ制作元のフジテレビが地域活性化に活用したい千曲市と連携協定を結んだのは2022年。日本遺産認定から2年後、制作元が知らなかつたとは考えられません。アニメでは実際の名前は出てきませんが、お菓子処の名月堂や月の都構成遺産の武水別神社、さらしなの里歴史資料館など、さらしな姨捨にまつわるスポットがいくつも登場することから、意識していたのは間違います。ボウリングの知恵で難題を乗り越えたのは、老人の知恵で国を救つた姨捨伝説の筋書きをほうふとさせます。

「Turkey！」が好評の理由を考えているとき、千曲市出身のシンガーソングライター熊木杏里さんの曲を思い出しました。千曲市誕生20年記念事業として2023年4月に行つた、月の都ガイド冊子「The MOON CITY」の完成お披露集会で、熊木さんにおいでいただきコンサートを開催しました。その際に、熊木さんが月の都にちなんだ「姨捨の月を見に行こう」という曲を新たに作つて披露してくださいました。

月の都となつた郷里に思いを寄せた新曲で、ご両親と祖父母が暮らす千曲市に帰省したとき、子育てをめぐつて熊木さんがお父さんと「親子けんか」となつてお父さんの車で長楽寺に一緒に行つて、同じ月を見つめると…。そのようなエピソードを知り、曲を聞いてみると、一つの月を一緒に見ていると、こじれた関係も自然に作り直されるのだなと感じました。嘆きと癒し、再生です。

さらしな姨捨は歴史文化的に嘆きと癒しの聖地であると言えます。そのことが「Turkey！」の物語と映像、そして熊木さんの曲の魅力を一層高めています。「Turkey！」はテレビ放送後もインターネットで見ることができます。熊木さんの曲はこのコンサート限りで、リリースされていません。コンサートの様子は、地元のケーブルネット千曲で放送されたので、録画してあれば聞けます。コンサートの報告記事はさらしなルネサンスのサイトで「熊木」で検索してください。嘆きの最適の地について書いた過去号は75、78、113、249、263、274、279などです。

古今和歌集の「わが心慰めかねつさらしなや姨捨山にてる月を見て」の歌によつてさらしな姨捨の地が悲しみを持つ人の嘆きを吐露する最適の場として選ばれるようになったことについて、本シリーズでたびたび書いてきました（末尾に号数記載）。2025年、千曲市が舞台のテレビアニメ「Turkey！」が世代を越えて好評なのも、存分に嘆かせてくれるさらしな姨捨の場の力を生かしているからだと思います。主人公のボウリング部女子高校生たちはボケと突っ込みの楽しいやりとりを織り込みながら本当によく泣き、嘆きます。しかし、それらは救い取られ癒されていきます。